

REPORT

皆様へ元気を届けたい! ～ボランティアグループ「花の会」本格的活動再開～

【ボランティアグループ「花の会」の当法人での活動】

- ◎伸寿苑リハ室の胡蝶蘭のお手入れ
- ◎Café周囲等の花壇の整備
- ◎共和会主催の地域活動への参加 等



新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、当法人でのボランティア活動も中止にせざるを得ない状況でした。そんな中、「花の会」の方々には週1回、感染予防対策を十分施したうえで伸寿苑リハ室にある胡蝶蘭のお手入れを行っていただけていました。

10月に入り、コロナ感染症が落ち着く頃合いを見て、本格的な活動再開を迎えることとなり、先日Café周囲の花壇の整備が行われました。

今年は春から夏にかけて十分な活動ができない状況で非常に残念な思いをしていますが、整備した花壇の花を見ていただき、皆様へ少しでも元気を届けられればとの思いで一杯です。



◆当院へのアクセス

JRの場合

「南小倉駅」(日豊本線・日田彦山線)より片野方面へ徒歩10分

バスの場合

「木町二丁目」バス停(ファミリーユサ前)より小倉南区方面へ徒歩10分

都市高速の場合

「紫川IC」清水方面車線出口よりすぐ右側

カーナビでお越しの際は、

NAVI 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1と入力してください。



KR 医療法人 共和会

小倉リハビリテーション病院 / 介護老人保健施設 伸寿苑 / 共和会地域リハビリテーションセンター

TEL.093-581-0668 (代表) FAX.093-581-3319 (共通)

〒803-0861福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1 <http://www.kyouwakai.net> 共和会 検索

公式SNSで情報配信中!



Careline

KYOUWAKAI Press
「ケアライン」2022 新年号 / 回復期リハビリテーション病棟看護師の役割

○発行
医療法人共和会小倉リハビリテーション病院 / 連携広報部 井上崇

Careline

KYOUWAKAI Press ケアライン

2022

新年号

特集 回復期リハビリテーション病棟看護師の役割

REPORT 皆様へ元気を届けたい!
～ボランティアグループ「花の会」本格的活動再開～



若戸大橋(戸畑区・若松区) 令和3年、重要文化財(建造物)指定が内定。

新しい年を迎えて

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染対策に追われ、通常の新年とは程遠いものとなりました。旅行や出張だけでなく、近所への外出や会食の自粛を迫られ、非日常の生活様式が日常化しつつあるのではないのでしょうか。

個人的には昨年還暦を迎え、徐々に心身の老化現象も感じられるようになりました。健康維持に留意した生活を送らなければと考えているところです。当法人の柱である「地域リハビリテーション」の目的は、一言でいえば「あたりまえのくらしの実現」の支援を行うことだと考えています。昨年、一昨年は、感染蔓延のため、日常診療やサービス提供体制は大きな制約を受けました。特に、外出自粛のために支援が不足して、介護が必要な方々の体力や生活能力を低下させてしまいました。

本年は感染蔓延前の状況になることを願いつつ、感染対策を優先させながら、質の高いリハビリテーション医療・サービスの提供に創意工夫を凝らしていければと思っています。地域リハビリテーションを活動の柱とし、「個の尊重」「健康の増進」「生活の創造」を理念とした医療に全力を尽くす所存です。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

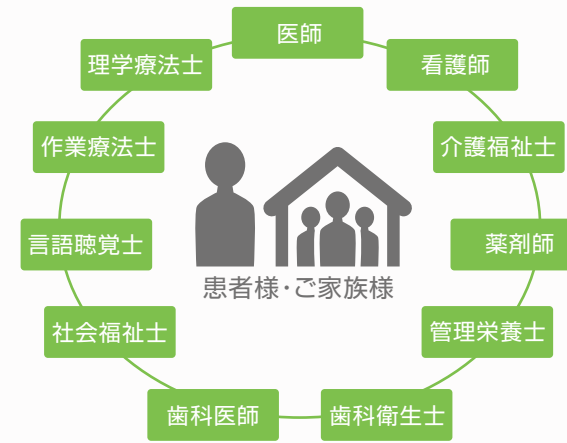
医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 梅津 祐一

回復期リハビリテーション病棟看護師の役割

1 回復期リハビリテーション病棟とは

回復期リハビリテーション病棟では急性期治療を終えた方々の支援をしていきます。多職種がそれぞれの専門性のもとに協働し、早期の在宅復帰を目標としたリハビリテーションを行う事の特徴としています。入院の対象となる疾患、入院期間も定められており、限られた入院期間で生活再建にむけ支援しています。対象となる疾患、入院期間は下記の通りです。当院では回復期1を取得しており、脳血管疾患が7割を占め、常に3割以上の重症患者様が入院しています。

疾患	病棟に入院できる期間
1 脳血管疾患、脊髄損傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢の損傷等の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態	150日
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	180日
2 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	90日
3 外科手術又は肺炎などの治療時の安静により廃用症候群を有しており手術後又は発症後の状態	90日
4 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	60日
5 股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日



2 回復期リハビリテーション病棟の看護師の役割

回復期リハビリテーション病棟では、医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、管理栄養士、薬剤師など多職種が協働しています。その中で看護師は、主に患者様がリハビリテーションを効果的・継続的に進められるよう体調管理や心理面の支援を行います。近年は、急性期病院の入院期間も短縮してきており、医学的な処置や管理も増え、全身管理が重要となっています。次に、発症や受傷によって身体機能が一変した患者様の「歩行」「食事」「排泄」「入浴」などにおいて、リハビリテーションで獲得した能力が生活場面で定着できるよう見守りや必要な援助を行います。「できないところ」ではなく「できること」に目を向けて自立を支援することも看護師の重要な役割です。また、24時間患者様の情報を知りえるため、日中と夜間では動作能力の違いがみられる場合や1日を通して安全に生活するための改善策を検討していただけるよう多職種へ働きかけます。このように看護師は、24時間患者様の心身の状態を把握し、多職種が持つ情報や知識と技術を生かし、円滑に連携するため、多職種間の調整をする役割も担っています。

そして、発症や受傷によって、不安な思いを抱えている患者様やご家族の心理面の支援も行いながら、生活の再建を行います。当院では入院中や退院後の家屋訪問に看護師も同行し実際の生活に沿った具体的な再発予防のための体調管理や、内服管理、介助方法についても指導を行っています。患者様やご家族のそれまでの生活や思いを知り、一緒に考え、退院後も安心して安全な生活を継続して送れるよう支援していくことが重要な役割です。

臨床サービス部 看護師 原田 友美

回復期リハビリテーション病棟看護師の1日(日勤)

- 8:30 勤務開始、申し送り
- 申し送り後～ 情報収集、検温、処置、ケア、シーツ交換、環境整備
- 11:30～ 経管栄養、昼食準備
- 12:00～ 昼食配下膳、食事介助、口腔ケア、排泄援助等
- 13:00～ デイリーミーティング午後のケア、処置、検温、入浴介助、カンファレンス
- 15:00～ CSミーティング(2回/週)
- 16:00～ 経管栄養、排泄援助
- 17:00～ 夕食準備
- 17:30 業務終了

